

やま せ

# 「山の背くらべ」

やまがたけんあくみぐん

山形県飽海郡のお話

はなし

にほんかい あし

ちようかいざん

やまやま

なが

日本海を足もとにふまえた鳥海山は、あたりの山々を眺めまわしながら、

「ずいぶんいろんな山があるもんだな。だが、こう見わたしたところ、わしより高いものはないようだ」と、ひとりごとをいいました。

ちい

これをきいた小さな山たちは、

ちようかいざん

だいいち

にほん

みぎ

「ほんとだ、鳥海山こそ、みちのく第一、いや、日本でもその右に出るものはあるまい」

と、ほめそやしたからたまりません。

はな

たか

じまんの鼻を、いよいよ高くして、

にほんいち

「うふふ……そうだ、わしこそ、日本一高い山だ、日本一の山だ」

おお

と、大いばりしました。

ひ

ひとり

たびびと

ある日、一人の旅人がやってきました。

「おお、こりやあ立派な山だ、長く裾野をひいて、すばらしい山だ。」

道みちばたの石いしにこしをかけて、鳥海山を眺めながらいいました。

鳥海山はうれしくてなりません。

「やっぱり日本一の山なんだな、えへん、どんなもんだい。」

あたりを見まわしながら、高慢こうまんちきそうにいいました。

煙草たばこをいっぶく一服のみおわったその旅人は、

「だが、まてよ、富士山の方はもうちょっと高いような気がするな」

と、いいながら、

「そうだ、肩かたの方にもっと雪ゆきがあったから、富士山の方が高い、

もうちょっと高いな。おいしいけれど、鳥海山はその次かな」

と、小手こてをかざして眺めておりました。

さあ、それを聞いた鳥海山は気が気ではありません。

「ば、ばかな、富士山がわしより高いなんて、そんなことがあるものか。」

小さな山たちが、

「うふふ……富士山が日本一だってさ」

と、小声こごえで話しあいました。

それをききつけた鳥海山ちようかいざんは、はずかしいやら、くやしいやらで、真赤まっかになって腹はらを立てました。

「ば、ばかな、わしはやっぱり日本一なんだぞ！」

もう、いても立たってもいられません。とうとう、頭あたまだけが、

ぽーんととび出だしたかと思うと、里さとをこえ、海うみをこえて、日本海にほんかいのまん中なかへ、とんでいきました。

ぼしゃーん。はげしい水みずしぶきをあげておちました。

どんなにくやしかったのでしょうか。

それが飛島とびしまとなりました。二十マイルにじゅうマイルもはなれた海の中の島で  
すが、今でも鳥海山ちようかいざんとおなじ神さまをまつております。